

Ecological relationship between fungi and fungivorous insects in Satoyama at Kakuma campus of Kanazawa University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/1108

金沢大学角間キャンパス内の里山ゾーンにおけるキノコ類と訪茸昆虫の相互関係

赤石大輔¹・中村浩二²

¹〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学大学院自然科学研究科; ²〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学自然計測応用研究センター

Daisuke AKAISHI¹ and Koji NAKAMURA²: Ecological relationship between fungi and fungivorous insects in Satoyama at Kakuma campus of Kanazawa University

キノコは樹木との相利共生や老朽木の分解など、森林の維持や更新に重要な役割をもつ。キノコは栄養的に優れ消化も容易なため、キノコを資源として利用する昆虫（訪茸昆虫と呼ばれる）が多くの分類群に見られる。これまでの訪茸昆虫の研究は、キノコの外部を摂食する甲虫・トビムシなどの種の記載や季節消長の調査や、幼虫がキノコ内部で成長するハエなどの競争や共存機構について検討したものなどがある。しかし共存機構の従来の研究はショウジョウバエの種間関係を中心としたものであり、幅広い分類群を含んだ包括的な研究は少ない。

本研究では金沢大学角間キャンパス内の丘陵に発生するキノコの季節消長と訪茸昆虫、特にキノコ食双翅目の群集構造を調査した。

方法

調査ルート沿いに発生したキノコの種・本数を記録し、採集して傘の直径・柄の太さ・湿重量・発達段階を測定し、飼育容器に入れて羽化してきた成虫を採集した。発達段階は幼菌期・成菌期・移行期・老廃期の4段階に分け、成菌期から老廃期のキノコを採集した。

結果

5月から11月までの調査で2001年は13科26属50種201パッチ、2002年はハラタケ目12科21属49種334パッチのキノコを採集し、そこから多数の双翅目が羽化してきた。特に調査地で優占するベニタケ科のツギハギハツについては、発達段階でキノコを利用する双翅目の種構成の変化を定量的に調査した。昆虫は双翅目が8科7216個体、その他に膜翅目（寄生蜂）、甲虫が少数羽化した。

ツギハギハツではどの発達段階でもイエバエ科のモモグロオオイエバエが優占した。ノミバエ科、キノコバエ科は成菌期から移行期にかけて多く、ショウジョウバエ科はフタオビショウジョウバエが優占し老廃期に多かった。老廃期に多いショウジョウバエも、モモグロオオイエバエが羽化したキノコからはほとんど羽化せず、両者の間ではモモグロオオイエバエが競争優位者であると予測できた。